

海域の空間認識に関する一考察 ～神社の眺望地形とヤマアテ地形に注目して～

田口 凌介¹・二井 昭佳²

¹ 非会員 国士舘大学大学院工学研究科 建設工学専攻
(〒 154-8514 東京都世田谷区世田谷 4-28-1, Email:s0me201n@kokushikan.ac.jp)

² 正会員 国士舘大学理工学部 教授
(〒 154-8514 東京都世田谷区世田谷 4-28-1, E-mail: nii@kokushikan.ac.jp)

本稿は、海域における空間認識の知見を得ることを目指し、瀬戸内海の備讃瀬戸・塩飽諸島周辺を対象に、沿岸部の神社の空間構成や神社からの眺望地形、当該エリアの漁場把握に用いられてきたヤマアテ地形を把握し、それらの関係性について考察した。その結果、①神社の基本的な空間構成は海・鳥居・参道・本殿と海に向かう軸線が重要視されていること、②その空間構成を持つ神社の4割程度が鳥居にいけどられる海側の地形を有し、とくに大槌島と飯野山は複数神社の鳥居にいけどられていること、③船の方向を定めるヤマアテ地形として大槌島が頻繁に用いられていることを明らかにし、それらをもとに大槌島が周辺海域の空間認識の基準地形として機能している可能性を示唆した。

キーワード：認知地図，地形，神社，ヤマアテ，瀬戸内海

1. はじめに

(1) 研究の背景と目的

周囲に水面の広がる海上は、陸上と異なり位置を把握するための手がかりに乏しい。そのため、船乗りや漁師は海上から望むことのできる地形を巧みに用いることで、船の進路を決定したり、漁場を記憶してきた。

航海や漁業は危険と隣り合わせの生業であり、海上から目印となる地形は、自らの命を守り、生活の糧をもたらす大切な存在として、彼らから篤く信仰されてきた。新潟の弥彦山や富山の白山、鳥取の大山や神奈川の大山など、周辺のなかでひとときわ高く、遠くの海上からも視認できる山の多くは、こうした存在となっている。

これらは、まさにケヴィン・リンチのいうランドマークであり、ある海域の空間認識において重要な役割を果たす地形だと考えられる。ここで注意したいのは、これらがランドマークになり得ているのは、高く目立つ地形だからではなく、海上からの目印として日々眺められ、生業を支えているからだと思像される点である。

こうした考えのもと、本研究では、漁場を記憶するヤマアテに用いられる地形に注目する。地形の大きさによらず、生業を支える地形が、生業を営む人々によって、

いかに意味づけられ、その海域の空間認識において、どのような役割を果たすのかを考察したい。

意味づけのかたちとして、海の生業を営む人々によって祀られた神社の鳥居に注目する。海際にたつ鳥居のなかには、鳥居が海上の地形をいけどっているものを時折見かける。古代の建築史を専門とする櫻井は、山岳を信仰対象とする神社の鳥居が神体山の遥拝地を示す役割を担っていた可能性を指摘している¹⁾。もし鳥居が遥拝にかかわるものであるとすれば、海際にたつ鳥居では、海への眺望が重要な意味を持つ可能性がある。

以上より本研究は、海域における空間認識についての知見を得ることを目指し、沿岸部に立地する神社の空間構成と神社からの眺望地形を把握した上で、対象エリアで漁場把握に用いられてきたヤマアテ地形を把握し、両者の関係性について考察することを目的とする。



図-1 大槌島をいけどる鳥居の例(男木島 豊玉姫神社)

(2) 研究の対象と方法

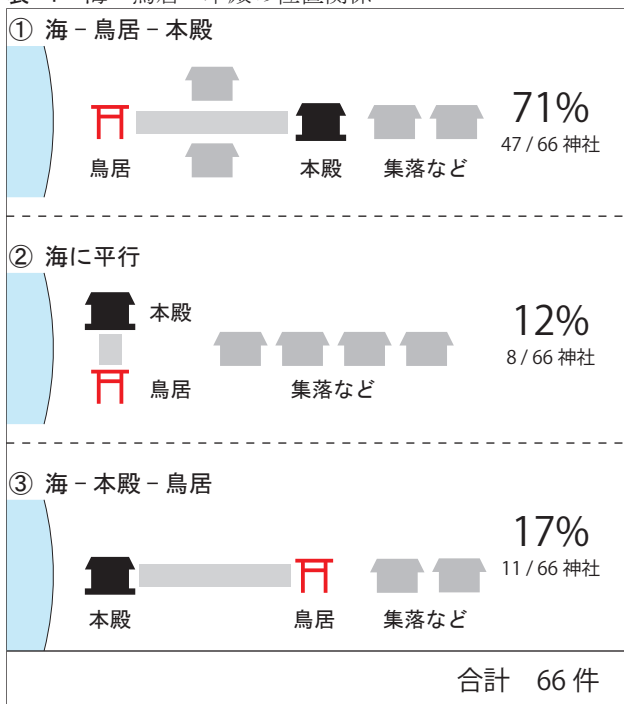
本研究の対象地は備讃・塩飽諸島周辺とした(図-2)。その理由として、①この地は古くから海上交通や漁業が盛んで、沿岸部に多くの集落が存在していること、②大小様々な島々が存在し、漁や航海上の目印として使われていたことによる。

研究の方法は、まず2章で対象範囲の沿岸部にある神社を抽出し、鳥居、本殿、海の位置関係に注目して沿岸部神社における空間構成の傾向を把握する。3章では海際に鳥居を有する神社における海側への眺望の特徴を把握し、4章では3章で得られた鳥居によりいけどられた地形と生業の関係を明らかにするため、当該地域のヤマアテ資料に記載された目印となる島や山を把握する。以上より得られたヤマアテ地形と、鳥居によって意味付けられた地形との関係を踏まえ海域における空間認知について考察した。



図-2 対象神社の分布

表-1 海・鳥居・本殿の位置関係



2. 対象神社の抽出と空間構成の特徴

(1) 神社の抽出

沿岸部の神社の空間構成の特徴を把握するため、まず香川県(小豆島～三豊市)と岡山県(備讃市～笠岡市)における備讃・塩飽諸島エリアから対象となる神社の抽出を行った。抽出にあたっては、日本陸軍が明治43年に作成した地形図(1/50,000)²⁾と、香川県神社誌³⁾⁴⁾、岡山県神社庁HP⁵⁾をもとに、鳥居あるいは本殿、またはその両方が海沿いに立地するものを選定した。その結果、香川県側46神社、岡山県側20神社の計66神社を対象とした(図-2)。

(2) 神社の分類

沿岸部に立地する抽出した神社に対し、a) 海・鳥居・本殿の位置関係、b) 本殿の立地地形の2点に着目して現地調査及び明治時代の地形図²⁾と現在の航空写真を基に神社の空間構成を分類した。

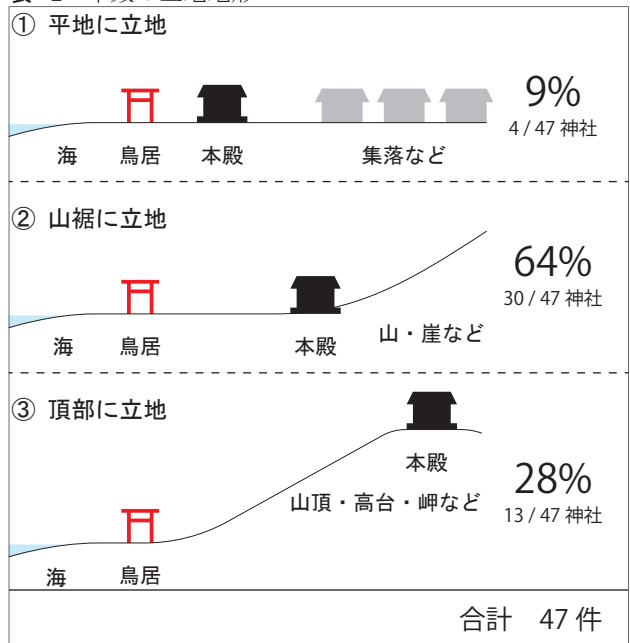
a) 海・鳥居・本殿の位置関係

表-1に示すように、①「海-鳥居-本殿」、②「海に平行」、③「海-本殿-鳥居」の3つのパターンが存在した。なかでもパターン①の海際に鳥居あり、陸側に向かって参道・本殿が配置されるものが47神社と最も多く、全体の7割を占める結果となった。

b) 本殿の立地地形

a)で最も多かったパターン①に対し、本殿の立地地形を平地・山裾や山腹・頂部の3つに分けて分類した。その結果、山裾に立地するものが30神社と最も多く、全体の6割を占め、山や岬の頂部を含めると全体の9割が山裾や頂部に位置していた。

表-2 本殿の立地地形



(3) 神社の空間構成の特徴

以上より対象エリアにおいて沿岸部に立地する神社の8割が海際に鳥居を配置し、7割が「海-鳥居-本殿」の空間構成で、本殿は山裾から頂部に配置されていることが明らかになった。

3. 神社鳥居からの眺望地形

(1) 調査の視点

2章より沿岸部の神社は「海-鳥居-本殿」という空間構成を持ち、海に向かう軸線を取るものが多いことを踏まえ、本章では神社前方の地形(図-3)について調査した。「海-鳥居-本殿」の空間構成を持つ47神社に対し、現地調査や航空写真、地形CG作成ソフト「カシミール3D」により鳥居越しの眺めについて把握した(表-3)。

(2) 鳥居に生け捕られた島や山

その結果、4割に相当する20神社で神社前方に地形を確認できた(表-3)。表-3を見ると、大槌島・飯野山(讃岐富士)を望む神社が4神社ずつ存在することがわかる。複数の神社から望まれる同一の地形は他に無く、大槌島と飯野山の特異性が伺える。これらの神社の分布については図-6・図-7に示す。

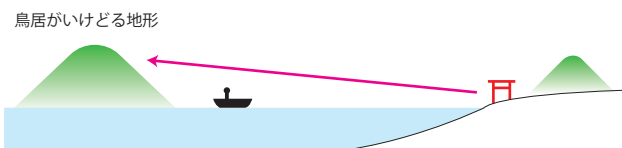


図-3 鳥居がいけどる地形



図-4 豊玉姫神社鳥居から見た大槌島

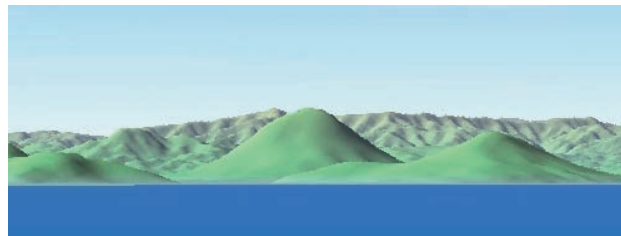


図-5 八幡神社鳥居から見た飯野山

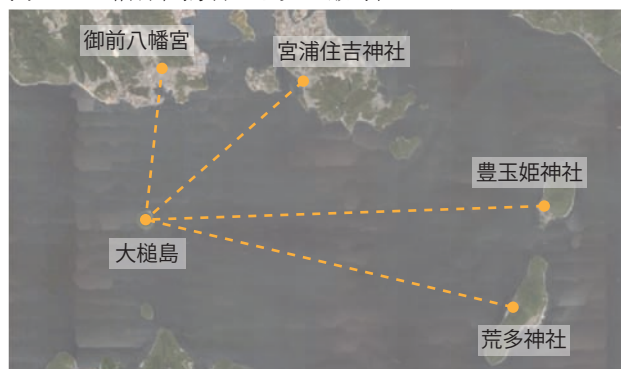


図-6 大槌島をけどる神社分布

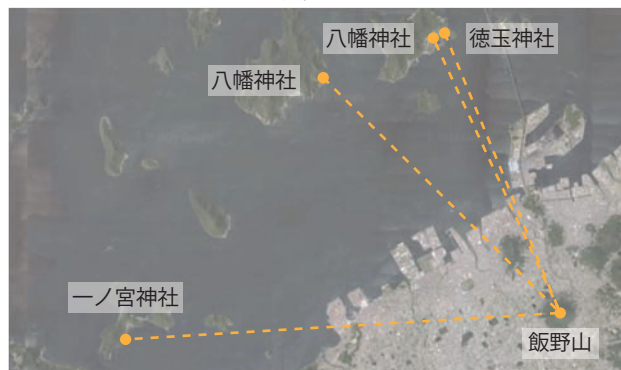


図-7 飯野山をいけどる神社分布

表-3 鳥居からの眺望地形(特定できたもの)

番号	神社名称	鳥居からの眺望地形	鳥居から地形までの距離	所在地
1	東濱(恵美須)神社	高松城	700m	香川県高松市城東町二丁目4番3号
2	石清水神社	名護島	1800m	香川県さぬき市津田町津田106番地
3	白鳥神社	一子島	3300m	香川県東かがわ市松原字新町69番地
4	鶴羽神社	紅峰・大崎山	12500m	香川県高松市屋島西町298番地
5	鹿島神社	白浜山	8500m	香川県小豆郡土庄町字鹿島甲2268番地
6	伊喜末八幡神社	小豊島	5400m	香川県小豆郡土庄町伊喜末字中島1836番地1
7	八幡神社	屋島	4500m	香川県高松市女木町233番地
8	荒多神社	大槌島	11500m	香川県高松市女木町233番地
9	豊玉姫神社	大槌島	12100m	香川県高松市女木町1892番地
10	(宮浦)住吉神社	大槌島	6400m	香川県香川郡直島町2203番地
11	八幡神社	飯野山	13800m	香川県丸亀市本島町笠島1034番地
12	木鳥神社	牛島(西峰)	2100m	香川県丸亀市本島町泊670番地
13	徳玉神社	飯野山	13600m	香川県丸亀市本島町185
14	八幡神社	飯野山	15000m	香川県丸亀市広島町立石122番地
15	(高見)八幡宮	筆ノ山・大麻山	15800m	香川県仲多度郡多度津町大字高見2083番地
16	(佐柳)八幡神社	小島	1100m	香川県仲多度郡多度津町佐柳1280番地ノ1
17	浪打八幡神社	亀笠山	5000m	香川県三豊市詫間町詫間1376番地
18	一ノ宮神社	飯野山	19900m	香川県三豊市詫間町栗島
19	御前八幡宮	大槌島	4700m	岡山県玉野市御崎2-2-3
20	大鳥神社	三崎・黄金石	5300m	岡山県笠岡市六島5639

3. 同じ海域のヤマアテ地形

(1) 分析の視点

3章で一定の神社が前方に地形を有することを確認できたことから、その意味を考察するために、古くから当地域でも漁師らが漁場位置を把握するために用いてきた方法であるヤマアテ⁶⁾⁷⁾⁸⁾に着目した。

(2) 久保家文書にみる目印となる島や山

ヤマアテに関する資料として香川県高松市香西を拠点に漁業を営んできた久保家の文書「鯛網々代場山ノ口書」⁹⁾(備讃瀬戸漁場のヤマアテ習俗¹⁰⁾ 翻刻資料)に着目した。この資料は、備讃・塩飽諸島の南側を中心に300程度の漁場が豎山と横山という2方向のヤマアテで記載された貴重な資料である、そこでヤマアテで用いる島・山と、それらが豎山・横山のどちらに分類されているか整理した。表-4は、おおよそ300程度記載されたヤマアテの中から、10回以上記載のある地形である。

整理した結果、12の地形で10回以上記載があり、その中には極端に豎山・横山どちらかに偏って扱われているものが確認できた。特に大槌島・小槌島は35回以上あるにも関わらず、ほぼ豎山として用いられている(表-4)。

(3) 豎山と横山の役割

篠原が『海と山の民俗自然誌』¹¹⁾で指摘しているように、ヤマアテにより漁場を特定する際には、舟の方向を定めるヤマアテと、場所を固定するための2種類をくみあわせるとされる。そこで、豎山と横山のヤマアテをカシミール3D・航空写真で検証した結果、豎山の方がヤマアテのポイントからオヤヤマとシタヤマの距離比が大きい傾向がみられた(図-8)。すなわち、豎山の方が微妙な位置取りでオヤヤマとシタヤマの見えがかりが変わることから、正確な針路が定めるのに適しており、横山は豎山よりは、変化がゆるやかであることから、漁場のおおよその範囲を示していると考えられる(図-8)。

表-4 久保家文書で10回以上記載のある地形一覧

地名	ヤマアテ分類	記述件数	%表記
乃生	豎山	21件	33%
	横山	29件	46%
	不明	13件	2%
	合計	63件	
小槌	豎山	32件	84%
	横山	4件	11%
	不明	2件	5%
	合計	38件	
大槌	豎山	30件	86%
	横山	2件	6%
	不明	3件	8%
	合計	35件	
柏島	豎山	10件	37%
	横山	14件	52%
	不明	3件	11%
	合計	27件	
瀬居島	豎山	16件	64%
	横山	2件	8%
	不明	7件	28%
	合計	27件	
紅峰	豎山	1件	6%
	横山	16件	89%
	不明	1件	6%
	合計	18件	
尾原	豎山	11件	73%
	横山	3件	20%
	不明	1件	7%
	合計	15件	
女木島 帆筒鼻	豎山	10件	83%
	横山	0件	0%
	不明	2件	17%
	合計	12件	
御山	豎山	0件	0%
	横山	10件	100%
	不明	0件	0%
	合計	10件	
神在	豎山	2件	20%
	横山	8件	80%
	不明	0件	0%
	合計	10件	
白峰	豎山	0件	0%
	横山	8件	80%
	不明	2件	20%
	合計	10件	
宝祿山	豎山	1件	10%
	横山	6件	60%
	不明	3件	30%
	合計	10件	

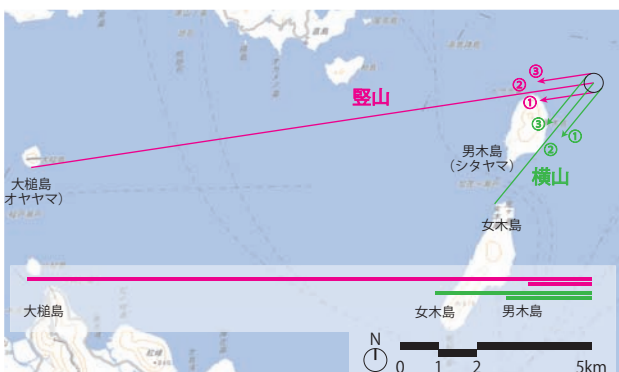
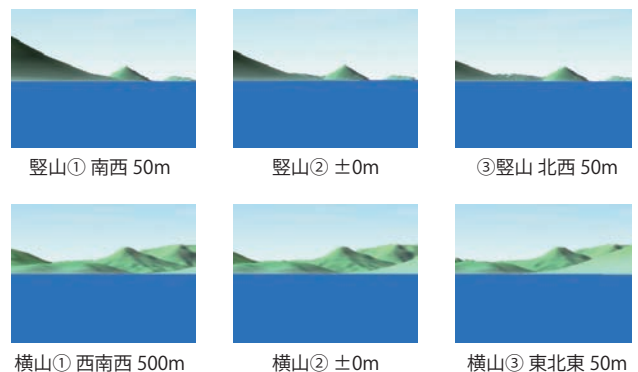


図-8 豎山と横山の違い



(4) 海上のランドマーク

堅山のヤマアテに多く扱われる地形周辺の漁場位置を明らかにするため、大槌島のヤマアテで示される漁場を縦横どちらかしか分からなかったものも含め、地図上にプロットした(図-9)。

結果、図-9のように大槌島を中心に、舟の進行方向・動線となる堅山の線が集中していること、複数の漁場が大槌島を用いた堅山の軸線に沿って並ぶことが明らかになった。すなわち、大槌島は円錐形の視認性の高い地形で漁場を指し示すヤマアテ地形に多く用いられていることから、同海域における空間把握の基準として機能しているのではないかと考えられる。そして、大槌島をいけどる神社が複数存在するのは、漁業において漁場の位置把握に必要な大槌島という実用的目印が信仰と結びついているからだと考えられる。大槌島をいけどる神社のある岡山日比、直島宮浦、男木島、女木島西浦と大槌島の間には、大曾の瀬や中瀬、中浦ノ瀬といったそれぞれの集落が漁を行う良好な漁場が広がっており^{7) 10)}、大槌島東側では複数の漁場ポイントが連なっている。

5. 結論

本研究の成果は以下の通りである。

- ①岡山県及び香川県神社庁が公開する神社のうち、沿岸部に立地する66神社を特定した。
- ②特定した神社の空間構成を調査し、7割にあたる47神社が「海-鳥居-本殿」の並びであることから、海に向かう軸線が重要視されていることを指摘した。
- ③海に向かう軸線を有する47神社を対象に、鳥居越しの眺望地形について調査を行った結果、20神社で神社前方に地形を確認できた。特に大槌島・飯野山(讃岐富士)を望む神社が4神社ずつ存在し、複数の神社から望まれる同一の地形は他に無く、大槌島と飯野山の特異性を指摘した。
- ④備讃瀬戸漁場のヤマアテ習俗に翻刻資料として掲載されている久保家文書の「鯛網々代場山ノ口書」⁹⁾のヤマアテに記載された島・山と、それらが堅山・横山のどちらに分類されているか整理し、堅山と横山の役割の違いについて指摘、特に大槌島・小槌島はほぼ堅山として用いられていることを明らかにした。
- ⑤堅山と横山のヤマアテをカシミール3D・航空写真で検証した結果、堅山の方が微妙な位置取りでオヤヤマとシタヤマの見えがかりが変わることから、正確な針路が定めるのに適しており、横山は堅山よりは、変化がゆるやかであることから、漁場のおおよその範囲を示している可能性について指摘した。

⑥久保家文書「鯛網々代場山ノ口書」⁹⁾において、大槌島を用いるヤマアテの漁場を地図上にプロットした結果、複数の漁場が大槌島の堅山の軸線に沿って並んでいることを明らかにした。

⑦以上より、堅山のヤマアテとして頻繁に用いられている大槌島は、その周辺海域での空間把握の基準として機能している可能性について考察した。

今後の課題としては、今回対象とした神社の祭神との関連や、沿岸部に立地する神社とその背後にある地形との関係について調査を進め、アプローチしていきたい。

参考文献

- 1) 自然神道の空間構成-斎場と鳥居の形成過程および設計手法
- 2) Japan 1:50,000, 大日本帝国陸軍, 1910 (<https://stanford.maps.arcgis.com/apps/SimpleViewer/index.html?appid=733446cc5a314ddf85c59ecc10321b41>)
- 3) 香川県神社誌 上巻, 香川県神職会, 1938
- 4) 香川県神社誌 下巻, 香川県神職会, 1938
- 5) 岡山県神社庁, 2019 (<https://www.okayama-jinjacho.or.jp/search/>)
- 6) 香川県県史 第14巻(資料編 民俗), 香川県, 1985
- 7) 直島町史, 直島町史編纂委員会, 直島町, 1990
- 8) 玉野市史, 玉野市史編纂委員会 編, 玉野市, 1970
- 9) 久保家文書(鯛網々代山ノ口書・庵治前 前場 瀬居嶋 釣場覚)(翻刻資料), 備讃瀬戸漁場のヤマアテ習俗, P50-63, 瀬戸内海歴史民俗資料館, 2007
- 10) 備讃瀬戸漁場のヤマアテ習俗, 瀬戸内海歴史民俗資料館, 2007
- 11) 篠原徹:海と山の民俗自然誌, 吉川弘文館, p155, 1995